



明日に架ける橋

進路だより第9号
2020/1/8
兵庫県立明石高等学校
進路指導部発行

□明けまして、おめでとうございます□

1 新年を迎えて、何を思う??

改めまして、明けましておめでとうございます。令和2年となりました。新年を迎えみなさんは今、どのような思いを抱いているのでしょうか?

1年生は、高校生活も慣れ、いよいよ4月からは学校で中心の学年になります。また、理系・文系と自分が選んだコースに分かれ、進路に向けて覚悟を決めて臨まなくてはなりません。授業内容もますます高度なものとなると思います。頑張る決意はできているでしょうか?

2年生は、4月から最上級生となり、「受験生」となります。今はまだ、その実感はわからない人も多いかと思いますが、すぐにその時はやってきます。さらに、大学入試において、大きな変化の年となります。また、部活動において最後の年となります。すべての面で集大成となる大切な1年です。今まで以上に気合いを入れて臨みましょう。

そして3年生。いよいよ、センター試験、私立大一般入試、国公立大二次試験が始まります。不安もあると思いますが、ここまでの様々な思いを入試にぶつけて、奮闘してもらいたいと思います。ここからが本番ですので、根気強くいきましょう。体調管理の非常に難しい時期です。心も体もしっかり整えて、闘って欲しいと思います。

1年生から3年生まで、置かれている状況は違っていても、自分のこれからの対する熱い思いは同じはずです。年が変わるという事を一つの契機として、昨年度よりレベルアップした自分を目指しましょう。

2 視点を変えて物事をとらえる。

インターネットの記事の中に面白いものがありましたので、ご紹介します。元日の朝日新聞に掲載された、「そごう・西武」の広告のメッセージです。

大逆転は、起こりうる。

わたしは、その言葉を信じない。

どうせ奇跡なんて起こらない。

それでも人々は無責任に言うだろう。

小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。

誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。

今こそ自分を貫くときだ。

しかし、そんな考え方は馬鹿げている。

勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。

わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。

土俵際、もはや絶体絶命。

『そごう・西武 広告より』

このメッセージはある力士をキャラクターとして立てて、書かれています。

さて、みなさんはどのような印象を持ちましたか?何となく、もう非常に追い込まれていて、この状況を打開する手段も逃げ道もない結構ネガティブなメッセージのように思いませんか?たか?

しかし、この広告の最後にはこう綴られています。

「ここまで読んでくださったあなたへ。文章を下から上へ、一行ずつ読んでみてください。逆転劇が始まります。」

ではみなさん、このメッセージを下から上へ読み返してみましよう。すると…

土俵際、もはや絶体絶命。

わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。

勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。

しかし、そんな考え方は馬鹿げている。

今こそ自分を貫くときだ。

誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。

小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。

それでも人々は無責任に言うだろう。

どうせ奇跡なんて起こらない。

わたしは、その言葉を信じない。

大逆転は、起こりうる。

『そごう・西武 広告より』

初めに上から読んだ印象とは、がらりと変わったのではないのでしょうか?ネガティブに思えた文面が、見方を変えるだけで、ポジティブで活力の湧くメッセージへと、みなさんの中で変わりましたか?

本当に伝えたいメッセージは実は下から読み返したこちらの方だそうです。

これは、文章をうまく使った非常に面白い表現の仕方です。この表現方法も興味深いのですが、それよりも私は、**視点を変えることの重要性**を教えてくれているメッセージではないかと思いました。人というのは、追い込まれると視野が狭くなったり、発想がネガティブになったりしがちです。

「追い込まれたときこそ、ここ一番踏ん張らないといけなるときこそ、視野を広く持ち、物事に臨むことが大切である。最後まで諦めてはいけない」

とこの広告は教えてくれているのではないのでしょうか。奇跡をただ願うだけではいけませんが、諦めずに取り組むことで、何か自分が思ってもなかった成果を得られることもあるかもしれません。

「自分を信じ、創意工夫をし、闘いぬきましょう!」

今年1年が明石高校生にとって、実りある1年となることを祈っています。